

タンザニアで学んだこと

新宿区立四谷第四小学校

教諭

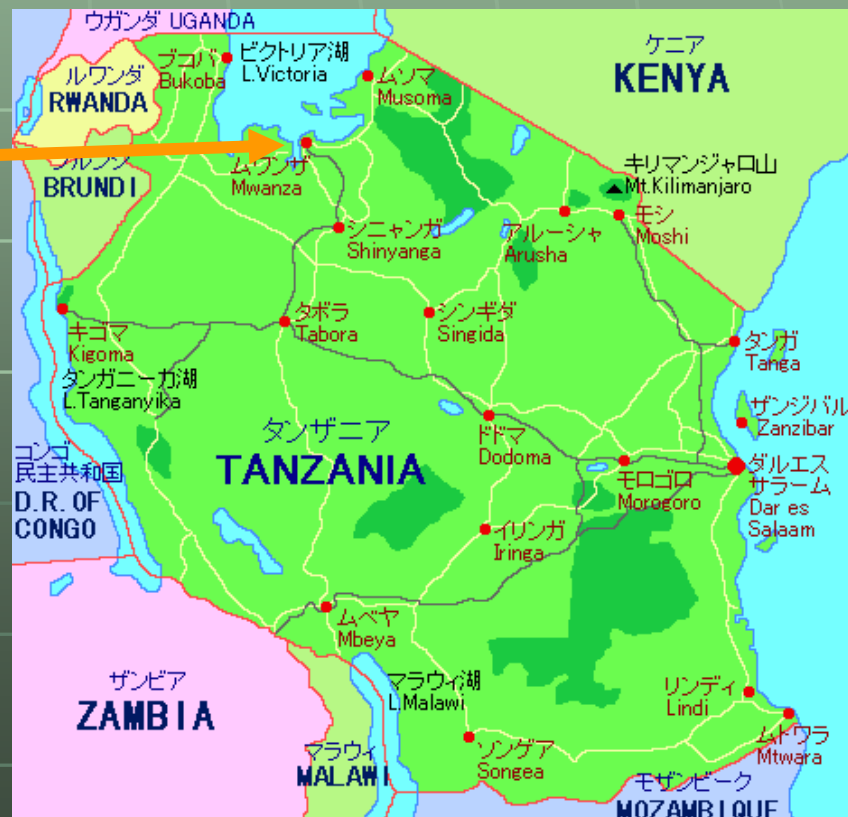
山中美保

TANZANIA

- タンザニアはアフリカ大陸の東岸。
- 日本から、飛行機で20時間ほど(2日)



- 赴任地はタンザニアの北部、世界第2位の湖、ビクトリア湖に面したムワンザ。



タンザニア第2の人口の ムワンザ

- 丘の上まで、民家があり、とにかく人が多い。
- ビクトリア湖と巨大な奇岩が、風光明媚な景色をつくっている。
- 湖では、ナイルパーチ、テラピアなどの魚も豊富にとれる。
- ケニア、ウガンダとの交通の要所。



ビスマルク・ロック

ムワンザ



ムワンザ市内中心部



ビクトリア湖



ビクトリア湖と漁船



駅前付近

ムワンザ2



広告の車



丘の上まで、民家が密集



日本の援助でできた巨大な魚市場



ビクトリア湖の夕焼け

ことばと民族



スクマ族のダンス

- 約120もの民族がいる。
それぞれが、自分たちのことばを使っている。
- 公用語はスワヒリ語、中学校以上では、英語で授業のため、英語がわかる人もいる。
- 4～5つの言葉がわかる人もざらにいます。(スワヒリ語、英語、母方の言語、父方の言語、隣の村の言語など。)
- ちなみに、ムワンザはタンザニアの15%をしめる最大民族のスクマ族が多い。
- ケニア、タンザニアというと「マサイ族」のイメージが強いが、彼らは服装などで目立つが、意外に少数派である。

少数民族の民族



バラバイグ族のダンス



マサイ族のダンス



狩猟民族ハザッビ族



ダトーガ族

人々



教会の歌の練習風景



子どもたちは元気

- おしゃべりが大好き。
道で出会るとスワヒリ語で、
「フジャンボ(こんにちは)」
「シジャンボ(こんにちは)」
仕事はどうか、
家族は？
、、、長い長～いあいさつがつづくことも。
- 陽気で、明るい。
- ダンス、歌が得意。

文化・生活

- はみがき

木の小枝を噛み繊維をやわらかくして、歯ブラシとしてつかう。



- 食事は手で食べる習慣が残っているため、食事の前後は必ず手を洗う。



食べ物1

主食

- **ウガリ**

(とうもろこしの粉をまとめて、まんじゅうのようにする。)

- マトケ(食用バナナ)
- ワリ(米)
- ピラウ

(米、ジャガイモ、を香辛料で炊く)

おかず(煮るか、焼くか、揚げる。)

- マハラゲ(煮豆)
- ニヤマ(牛肉、山羊の肉)
- クク(鶏肉)
- サマキ

(ビクトリア湖の淡水魚、ナイルパーチ、テラピア)

スナック

- チャパティ(小麦粉をねって平たくし、焼いた物)
- サモサ
(ひき肉、野菜などを中にいれ、あげたもの)
- アンダージ(ドーナツに似ている。)
- キトゥンブア(米の粉からつくったもの)



お祝いの日の食事



結婚式の食事

食べ物2



サマキ・ナ・チプシー
(フィッシュアンドチップス)



ウトウンブ(牛内臓煮込み)



ディジー、ニヤマ、ピアジ、モガ
(バナナ、牛肉、ポテト、野菜)



ウガリ

食べ物3



キトゥンブア
(米粉のスナック)



サモサ
(ひき肉やポテトがはいっている。)



豚肉を焼いた



コンゴロ(牛足煮)

おしゃれ



髪型

- 女性はいみこみ、つけ毛(色々なスタイルがある「キリマンジャロ」という名前もある。)
- 男性は短く切るか、剃る。たまに、アーティストたちは、いみこみしてる。



おしゃれ2



- 「カンガ」と呼ばれる大きな布、2枚で1セット。スワヒリ語のことわざが書かれている。女性の伝統的な衣装で、何十種類もの巻き方がある。冠婚葬祭には必需品。

名所



自然、野生の王国、
国立公園は有名。

- ソゴロンゴロ
- セレンゲッティ
- ルアハ
- セルー



- キリマンジャロ山
(5896m)

学校

- Primary (小学校) 7年間
 - Secondaryは2タイプ
 - O-Level(中学校) 4年間
 - A-Level(高校) 2年間
 - University(大学) 4年間
ここまで、行ける人は全体の2%程度。

Secondary終了後
教員養成校などのCollege(2~3年間)やDiploma(2年間)コースなどに進む人もいる。



Primary (小学校) 1



- 村の小学校
ひとつの机に4～5人ずつ
すわる。机などはなく、床に
直接すわって勉強している
こともある。



- 大学校の附属小学校
「Stadi za kaji」の授業
今日は、図工を教えます。

Primary (小学校) 2



- 私立の小学校
- ここは、小学校から、すでに英語での授業を取りいれている。



- 給食はワリ・ナ・マハラゲ(煮豆をごはんにかけたもの)ランチルームに全校生徒ならんで食べる。

Primary (小学校) 3



- International School
インド系の子どもたちが多くかよっている。設備もめぐまれている。
先生は、イギリスなど海外からきている。
- 図工の授業です。
自分の名前をデザイン化しています。

Secondary O - Level(中学校) 1



- 大学校の附属中学校
授業は全て、英語で行われる。小学校までスワヒリ語で勉強してきた1、2年生には、授業を理解するのに、ことばの壁がある。
- グループ学習が多くつかわれている。

Secondary O - Level(中学校) 2



- インド系の私立
Secondary(中学校)



- コンピューターの授業。

ムワンザではインド系の
人々が、経済をにぎっている。

Butimba Teacher's Training College

- 教員養成大学校で60年以上の歴史をもつ。
- 幼、小、中学校の教員をめざす1200名近い学生が、全寮生活をしている。
- ここは、タンザニアで唯一、美術、音楽、体育、演劇などの技術教科の教員養成を行っている。



ここで、青年海外協力隊として、美術全般の指導に携わった。

Art Department (美術科)

- 2年制で当初はO - Levelを卒業した学生であったが、政府の方針変更後は、A - Levelを卒業した学生へと移行した。
- 学生は現職の小、中学校の教員で、美術教師を目指している。年齢も20～50歳近くと、幅広い。
- しかし、ここを卒業しても美術の授業が実際に行われている学校は数えるばかりしかないのが、大きな問題点である。



ボランティア活動の内容

- 美術全般の指導

デザイン、デッサン、絵画、彫刻、陶芸、版画、写真、鑑賞、美術史等の理論、実技と教授法。



現地での暮らし



- 2LDKの家。
- 電気は60年以上も前の設備のため、雨、風で、すぐに停電になる。
- 我が家はジェラシックパーク。いろいろな生き物が現れる。
ヤモリ、ヘビ、サソリ、オオトカゲ、ヒト。

日本での協力隊員になる前

- 現職教員参加制度での試験に合格した。
- その約1月後、自分の専門分野(絵画)ではなく、陶芸か彫刻の要請へと変更となった。
- 彫刻は、大学でも多少勉強したが、陶芸に関しては子どもに教えるだけの知識しかなかった。
- 自己学習することは、粘土を採る知識、素焼き程度のできる窯の作成、轆轤の技術などがあった。
- 短期間に、さまざまな知り合いをたずね、多くの方の支援を受けて、即席の基礎を学んだ。

そして、陶芸

- 赴任するや、科目は好きな分野を教えて良いとのと、、、しかし、日本でのにわか勉強とはいえ、陶芸へかけた労力を無駄にはしたくなかった、絵画と陶芸の2束のわらじを履くことにした。
- まずは、粘土探しから始めた。



川沿いの粘土層を見つける。



良質のカオリンの山を知る。

野焼き

- 大昔から行われている。



陶芸小屋と作品保管棚の作成



小屋を建てるために整地する。



陶芸小屋の完成



学校の主事さんと学生たちで棟上げをする。



作品保管棚の作成

素焼き窯 の作成と薪の準備



レンガを運ぶ



同僚の先生大木を切る



窯をつくる



みんなで木を引っ張り倒す

焼成



素焼き窯 と焼成



ワークショップ開催

■ SEAMIC

(south east African mineral centre)

アフリカ6カ国が共同出資し、研究を行っている機関

ここで、隊員支援経費から支援してもらい同僚と一緒に陶芸の知識を学ぶ。



ワークショップの様子

ワークショップでの作品を校内に展示



学校の教員と生徒向けにワークショップの報告と展示をする。

オイルバーナー作成

- 職人の見積もり違いの上に、学校の資金不足で途中、作成が中断。その後、隊員支援経費にて継続し、作成した。
- 度重なる停電と最初の職人の仕事に対する意欲不足で、製作開始から半年近くかかった。



途中から、担当になった職人



完成したオイルバーナー

本焼き窯作成

- オイルバーナーと同時に、隊員支援経費からの支援を受け、本格的な窯の作成にとりかかった。
- 閉鎖したガラス工場から耐火煉瓦を購入するための見積もりをとることに、苦勞する。



地固め



レンガを積み始める

窯作成中



学校の主事さんの協力が大きかった。

窯、完成



屋根に煙突をつけて、完成

焼成



初焚きの作品は焼けていた。

焼成



楽焼き程度の焼成をした、しかし、温度が上がっていなかった。

焼成



再度、楽焼き程度の温度で焼く、今度はいい色がでていた。

低温焼成の作品



楽焼き程度の焼成温度で焼いた物

焼成



高温焼成をするが、目標温度達していなかった。

素焼窯 作成



現地の材料で、一般の学校でつくることができるモデル窯作成

土、原材料、焼成サンプル



粘土の調合試験



SEAMICで粘土の調合試験



陶器工場での粘土の焼成試験結果



赴任中に集めた、原材料と粘土

陶芸について残された問題点

- 焼成の仕方の改善 < 薪を入れるタイミング >
10時間程度の焼成で、1200度くらい上がる窯を作ったつもりであったが、実際は17時間焼成したにも関わらず、温度はせいぜい1000度前後であったと思われる。
- 窯の仕組みの改善
熱を蓄えるよう更に煉瓦で覆うこと、煙突の長さや幅の調整、焚き口を大きくするなど。
- 現地で手に入るものを使った釉薬の調合
- カオリンなどとの調合をした粘土の開発
- 生徒作品のレベルアップ

タンザニアの美術



ティンガティンガ派の絵画



マコンデの彫刻



伝統的な陶芸



展覧会をする陶芸作家の作品

授業の合間に行ったこと。

- 手に職をつけたい近所の
婦人グループにバテック
(ろうけつ染め)を教えた。
- 子どもたちに自宅で絵画
を教えた。
- 生徒たちの版画展覧会
の実施。



婦人グループと生徒たち



版画展覧会の作品を持つ生徒

最終報告書

- 要請内容が違っていたり、現地の方針がかわることもあった。おかげで、色々な人との出会いがあった。
- 日本にいるのとは、違う苦労はあったが、自分がしっかりとした目標をもっていれば、何事にも挑戦できる。筋書きのない創造的な時間であった。
- 結果をだすには、時間が短かった。
- しかし、やはり、行って良かった。多くの人にも経験してもらいたい。
- そして協力隊に参加するにあたり、支援して頂いた多くの方に感謝申し上げます。

日本の子どもたちへ



演劇学科の生徒で、友人のBACHEさん

タンザニアで学んだこと

ご静聴ありがとうございました。

16年度1次隊 山中美保